

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

振り返れば悪夢の10数秒。水・ガス・電気の無い  
生活の不自由さは忘れ難い。

反面、友人・知人の有難さが骨身に染み込

“スクラム組んで頑張りな”と励まされた。

震災をきっかけに産み出された絆が生まれ、力強く

一歩を踏み出したことに感謝している。

“仲間が居ること信じて”

お名前	小 鯛 春 一 郎	年齢	25 才
ご住所	兵庫 都道府県	神 戸 市 区	

1. 17は忘れまい。

私は長田で被災しました。私の家族は皆、  
無事でしたが、実家は兵庫の松本通りで、全焼し、又  
おぼが、焼骨で、自衛隊の方の手によつて、私にわたされました。  
骨の入った、ナベをもつた、私に、敬礼で送って、もらったのです。  
兵庫署に行つて、行方不明者を、取り下げ、神戸大学病院に行き、  
そこで診断書をもつて、ナベを、かかえて、三ツまがら、叔宿まで、  
歩いて帰つたのを、鮮明に覚えて、おります。

帰りの道、113人まで、声をかけて、11人だけ、熱いお茶を、もらい、  
全然他人の一言が、こころに、うれしいやうな、45年(当時)生きて、  
初めてのことでした。

他県ナンバーの車の心強かたを、助けに、また、くぐり、くぐり、  
人の思いやり、やいば、自分自身を、少し、変えらしたのを、

被災者同志、という、スクリュー、です。

10年の間は、少しづつ、勝手に、わかまを、まふか、  
で、くるようになつた。

この頃、新聞やテレビで、震災10周年を、よく目にします。

これを、機会に、もう一度、10年前の、心で、少し、でも、  
もどかし、いいな、と思つて、おります。

おぼと、親友を、亡くして、涙、いっぱい、おぼ。

恥かしく、一生を、送つて、おります。

神戸市

西口加代子  
にしぐちかよこ

54才

「輝く未来へ 輝く神戸へ 輝く世界へ」

神戸よ いまだ深き傷跡を残しながらも

未来への扉を 静かに開きつつある街よ

忘れることなかれ

死せる街を救わんと 倒れ一人を支えんと

風の如く 波の如く

瓦礫を超え 炎を超え

駆け付け一優一き人々を

伸べられ一愛の手を 流され一涙を

その感謝の心を 甦り一輝きを

現在を苦しむ人々に捧げよ 世界に捧げよ

今年も あれら この震災記念日に

あふれる祈りを込めん

輝く未来へ 輝く神戸へ 輝く世界へ

中村

神戸市

宏一 45才

平成16年11月

神戸市

谷口トク子  
(65歳)

阪神・淡路大震災の思い出

201.

平成7年1月17日。あの日早朝。「大変や  
 !」と会社へ向かった主人。だが昼食に困る  
 だろうと思ひ、すぐ炊ひた炊飯器をそのまゝ、  
 タクシで会社まで持参。途中、水道管が破  
 裂、ガスもれで通行止め、道路の陥没はとと  
 シリ目に怖ひも寒ひもなかつた。私の出身地  
 は秋田県。設けられた対策本部から救援物資  
 をはじめ、医療班、消防隊員ら92人が長田小  
 学校へ。同3月末、近畿林田県人会員と共に  
 被災者に「きりたんぽ」と「栢庭うどん」を

300 食ずつ作り大変喜んだに違いない。私の  
 古里の大館市には、北鹿（ほくらく）新聞社  
 がある。募った救援金も、わざわざ役員2名  
 が神戸に来られ、私が神戸市役所に案内した  
 。それから10年。被災地は外見上、ほとんど  
 復興したかのよう。だが、人の心の傷はと  
 も金快しにわけられない。これからが正念場。  
 功世話に上るに秋田の官公庁、新聞社や事業  
 所などには、被災地の情報や話題を今も、ず  
 っと送り続けたい。

02.

前略

「神戸新聞」(16.10.14日付)

震災10年へのメッセージ募集を拝見

心にとろ福島民からの支援への感謝、

阪神淡路大震災の思い出も書かす。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

福島県大館市(北鹿)女子公(里)出身

谷口ト子

<メッセージ>

1.17の再発はコメント  
忘れなさい!

神戸市

と<sup>u</sup> 以<sup>1153)</sup>  
土肥晋一郎 (74歳)

神戸

テーマ: 1:17に寄せて

井上 穂

NO.

1/17 地震 神は 絶対 有り得ない と思はれ  
 た。大地震に見舞はれその驚きは想像に絶する  
 ものがありました。震れはM-7.2と聞いていま  
 す。西区に居りました。吾家。家具はゴーンと  
 ぐ倒れ。水・電気・ガス・テレビも止まりました。  
 た。今からどうして生きて行けば...と考えるば  
 かりでした。それから1日が過ぎ、1週間過ぎ、と  
 うとう1ヶ月が過ぎてしまいました。水が出な  
 い。食料の仕度はトイレ...本当に良く堪えて来  
 た。今更らなから人間の能力生かすまを知ら  
 され。人間の力強さやれば出来る信念も知りま  
 した。幼少の頃の戦争により爆撃を受け一瞬  
 にして廃墟と化した事と思い出してこま...ま  
 した。私は戦時中は広島に居りました。世界を驚  
 愕させた原子爆弾の洗礼を受け1ヶ月の闘病  
 生活をしました。立ちあがりました。人間は生  
 きていければ必ず立上られる事を味合いました。  
 私は現在76です。やれば出来る前向きな精神  
 力さえ有れば何人でも出来ることを証明して  
 います。現代の若者の方々。老人も頑張りませ

う。道は必ず開けます。泣き事は決して云はなしてね。

1200字

以上

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

NHK 朝のドラマ 「わかば」 に出演中の

南田洋子さん 演じる おばあさんの

言葉で「生きてるだけで ありがとう」と

言うのを見て、つくづく 本当だと感じる。

大震災で死なずに 生残って 行く実感です。

ふりがな お名前	かわ ちかほ 河東 めぐみ	年齢	65才
ご住所	兵庫 都道府県	神戸 市・郡	



阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

1995年1月17日、午前5時46分私は布団の中で目覚めた。突然、ギシギシ、カタカタと揺れ、ガチャンガチャンと物の割れる音が生じて、夫は目が覚めた。頭の上では、佛壇が倒れていたが幸にも無事だった。服を着込んで坂下にある甲南大学へ逃げた。道路は亀裂が入り、ガスの臭いがして怖かった。運動場から見上げると、マンションは壊れずに建っていたがすぐ下の旧家の家や、近くの一軒家が無残に壊れていてショックだった。突然私達を襲う天災には、人間はちっぽけなものをつくづく思った。今は亡き夫は、壊れた神戸の町を歩きながら、もと通りになるのに「10年かかるだろうな」と呟いた。10年の間には、いろいろなことがあった。新潟の中越地震では、大きな余震が続き怖い思いをされていることでしょう。美しかった山河が無残な姿で写し出されると胸が痛みます。お風呂上りのうしろさうなお湯顔にあうとホッといたします。皆様が早く普通の生活にもどれる日が来ることを念じて。

ふりがな お名前	きた 北	じま 島	えい 栄	こ 子	年齢	70才
ご住所	兵庫		(都道府県)	神戸	(市・郡)	

# 「1.17メッセージ」応募用紙

平成7年1月17日、その日は私の68歳の誕生日でした。赤飯を炊いて祝うべく妻は準備をしておりました。

午前5時46分突然の大地震、一瞬にして6500人の尊い生命が奪われ、建造物の崩壊、神戸の近代都市機能が麻痺しました。

幸いにして私宅は半壊程度でありましたが、神戸の母宅が気になり翌18日自転車で出かけました。途中道路の地割れ建物の倒壊等、交通渋滞で他県より応援の消防救急車両が通行できず大変な状態でした。私も地域の人々と共に瓦礫を取り除きしながら進んで、3時間近くかけてやっと家の無事を確認できました。

そのような状態の中で、微力ながらも何かできないかと考えました。

当時、私は自治会と老人会の役員をしておりましたが、広い範囲のボランティア活動としました。幸い私には未熟ながらハーモニカ演奏の特技がありますのでそれを活かしたいと考え1年後の平成8年1月17日、垂水在宅福祉センターに慰問ボランティアを申し出ました。その後、復興住宅、老人ホーム、ディサービス等、ボランティア活動も250回程になりました。

その間9年いろいろな思い出がありますが、私の特技でもって同年代の皆様楽しんでいただき共に楽しく過ごさせてもらえる、それが私の生き甲斐となりました。

ハーモニカ、譜面台、マイクスタンド等、8キロほどの荷物をキャリアーでひっぱり、会場までの地図を片手に出かけます。演奏を終えて楽しそうな皆様の笑顔、『また来てください』の言葉に(ああ、よかった)と、疲れも癒されます。また在宅のときは歌詞カードのワープロ作成等、次回の準備と練習に時間のたつのも忘れてしまいます。

健康でつつがなく日々が送れ、私の趣味が活かせる、このような生活をいつまでも続けたいと思います。

お名前	尾路 進	年齢	77才
ご住所	兵庫 都道府県 神戸 市 郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

1,461人の死者を出した、神戸市東灘区自治会連絡協議会から  
全国へ皆様に感謝、感謝の御礼を申し上げます。

多数の方が被災したあり様を鑑みれば、忘れた事がないほど復興に立ち上り  
たかっと思えます。全壊の建物は当然ながら半壊と判定された家も全部  
建築されて、古い土蔵の家は見ることがありません。

東灘区では、平成12年度に色々な震災復興事業を行ないましたが、特に区制  
50周年を祝い、区派に復興した街並みを30台のどんじり(地車)パレードを行ない  
元気を取り戻した方を多くの方々に被災いたしました。  
また、震災からの復興の精神の象徴としての記念碑の建立もいたしました。  
犠牲になられた方々の慰霊碑は、地域ごとに建立されています。

東灘区は、どんじりの街で3/台もあり、お祭りの5月にはどっこで太鼓  
と鉦の音と耳にします。元気になった神戸の街を見に来てください。

お名前	藤澤 福男	年齢	84才
ご住所	都道府県 神戸市 区		

思い起こせば10年前関空近くの下水处理場建設工事に三菱電機の工事責任者として頑張っていたとき、早朝5時過家を出てJR垂水駅のプラットフォームで高槻駅行きの始発普通電車を一人で待つていた。西から先頭車両がプラットフォームに近づいて来たときに転びそうになるほどの揺れがあった、地震だときずくまでだいぶかかったと想う。

すぐ家はどうだったかと想い走って階段を駆け降りて公衆電話より家にかけてたが駄目皆んなが使っていてかからない、帰る途中瓦がずり落ちている家や傾いている家等を横目で見ながら家まで走って帰った。家では娘と家内が壊れた食器などの整理中で怪我などしていなかった。話を聞いてみると「二階から階段を転げるように降りて食堂のテーブルの下で抱き合って震えていた」との事、その後余震が有っても「これは震度3やで」等という余裕が出来ていた。☆気が付いてみたら改札でハンコをもらった切符がポケットに有ったので今でも大切に記念として持っている。

此の地域の想いでを語り継ぐ為の資料を作ろうと、地域のボランティアグループで平成15年度は「東垂水さんぼみち絵地図」を7,000部作り地域の家庭に婦人会を通じて6500部配布して戴き、中学校や小学校、関係施設に寄付してあげたら大変喜ばれた。平成16年度は「東垂水ユニバーサルデザイン勉強会」を地域の兵庫県立盲学校と打合せ点字の地図作りをしようと頑張っています。健常者が障害の方の事を考えても無理が多いので難しい。 兵庫県立盲学校の先生方の絶大なご協力が大変嬉しい。

此の地域の想いでを語り継ぐ為の資料を作ろうと今回で12回目の「わがまちウオーク」を兵庫県立盲学校の先生方や今回は生徒さんも交えて実施するので楽しみです。

(お名前)	川口 博清	(年齢)	68歳
(ご住所)	兵庫 都道府県	神戸 市 郡	

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

今の生活に庆幸で一生懸命生きてきた  
有難い義援金と神戸市の復興に向けての  
道あり 本来はうその涙もあふれずあの年が  
あつた今がある 何があつてもあの年を想い出し  
頑張ろうと思ひました。

10年一頁 明日は何があつても立ち向かう力  
出来ました。

一日一日を大事に生きて行こう

一人でも生きていける。

助け合つてこの今がある。

ふりがな お名前	細川 とし子	年齢	64才
ご住所	兵庫 都道府県 神戸 市・郡		

# 「1.17メッセージ」応募用紙

30年前 地震の多い前任地仙台から 家内の御里  
兵庫県/神戸市へ転勤にまつた機会に自宅を新築した。

前任地での地震のおそろしさを経験した 私達は  
耐震性にしたスレ十等を、軽量鉄骨構造の注文  
住宅にした。

瓦葺きの重厚で美しい 日本/和風建築に比べ「割高か」と  
見映えの悪さに当時非常に後悔した。

しかし10年前の阪神・淡路大震災でも 建物破壊が重  
傷であるにもかかわらず 室内の家具・道具類の破損もさほど  
軽微で「すくなく耐震性能が証明された。

今新潟県中越地震の被害状況を知りにつけ 地震人口  
に住む我々は一人一人、地方自治体と協働して  
人を死なせぬ、人を傷つけない住宅/所づくり  
と取り組むべきと考える。

見映え、費用UPを少し犠牲にしても

ふりがな お名前	荒 木 登 治	年 齢	72才
ご住所	都道府県 神戸	市・郡	

# 「1.17メッセージ」応募用紙

- ◎ 阪神・淡路大震災で我が家は70%損壊した。交通機関もまじなうぬ時遠く北陸から親戚が救援に駆けつけ、雨としのげる程度にブルーシートで屋根をかさねるべく4、5名来て頑張ってくれた。その後(半年後)地元福井から山の木を切つてあつた丸太を大量投入、木造3階建てを4ヶ月で建ててくれた。毎張り親類や、古里が格別協力してくれたことは一生忘れることが出来ない。
- ◎ また、あれだけ苦勞して頑張ったと、<sup>仕事柄</sup>事例が多い。ニヤトルバスと集められ、大部分は神戸市内と歩いた大阪まで通勤したことも。又、三田<sup>2</sup>週りで帰途に着くと、<sup>E</sup>と等も忘れる。今と見比べると交通のアクセス、電気、水、ガスの有難さ、はじめて解る。
- ◎ 老練管理、安全管理、口の内外を通じて、神戸の体験をいつか話合つて、活かして行くことが如何に大事かを感じ続けた。ま。

ふりがな お名前	幸田 藤吉	年齢	75才
ご住所	兵庫 都道府県 神戸市 市・郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

世の中で恐いものは、地震・雷・家事・親父と云われていますが、あの震災までは、なぜ地震が一番目なのか不思議でした。いくら予備知識があっても、本当の恐しさは体験したものでないと分らないし、また、生活も一変してしまいます。

今後どこかで確実に発生する大地震に備えて、その時々刻々と変化する状況に素早く対応できる体制作りとノウハウの蓄積、被災者自身の取り組むべき課題について日頃から知っておく事が大切だと思います。

あれから10年になるうとしています。精神的な面を除くと、以前と変わらない生活に戻っています。これも全国の皆様からの暖かな援助と励ましの言葉に支えられたお陰です。本当にありがとうございました。

ふりがな お名前	は せ が わ よ し あ き 長谷川 好昭	年 齢	60 才
お住所	都道府県 神戸 市・郡		



阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

阪神・淡路大震災時に思ったこと体験したことを記します。

1. 震災時発行された震災証明書について。

私宅は軽量鉄骨のプレハブ住宅でした。震災被害半壊の証明を受けました。床下に1.5m以上の深さの亀裂が出来て、家の柱が湾曲したため、住宅の建て替えするより方法がなく、大工さんが来てから知りました。この様な場合全壊の証明書に切り替えをしてほしい。

2. 震災後二日目の19日がパスポート受け取り日であったので、電話も通じず、家内と二人自転車で家から神戸駅あまで約20kmを走行しました。信号が消えていて、自動車の飛び出しが恐しかったこと、帰路バンクを3回もして困った。出来れば受取り日を延伸、代理人1人で二人分受取れるようになってほしい。

3. 各地から大勢の色々な人が住宅復興支援をいただきありがとうございます。石垣の補修セメント詰めを教えてください。ごさいました。家内と二人で何日か掛けて詰めました。今もしっかりと補修出来ている様子です。自分等が出来るとは自分等であることだと思っております。

ふりがな お名前	申 <sup>ナカ</sup> 村 <sup>ムラ</sup> 重 <sup>シゲ</sup> 彦 <sup>ヒコ</sup>	年齢	76才
ご住所	兵庫	都道府県	神戸 <sup>市</sup> 郡

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

10年経つて今思いますが  
思いやり 恐ろしかったこと、悲しかったこと、  
痛いこと、つらいこと、何でもいいので喋り捲って  
下さい。  
その内 胸の中の不安や、わけのわからない中での  
ヤレばいい薄らぎ 消えていくように思っています。  
それが一番の癒しの早道のように今実感しています。  
その後元気が出ると色々な人々に出会った見えない  
ものの感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ふりがな お名前	とみ ながい のぶこ 富永 暢子	年齢	60才
ご住所	兵庫 都道府県	神戸 市	郡

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

「防災訓練を受け防災計画を立て自頂から自己防衛を計り  
~~生命と財産は自分自身で守る~~ 生命と財産は自分自身で守る」大震災を経験し  
命がたあたりをこのこと。行政に関心をもち自然破壊の  
開発や、埋立て、地名変更と先人達が守ってきた。人と自然の  
調和をなすことは災害を防ぐ。人災になりたらず、地名に  
は土地柄があり先人の知恵があるです。

ふりがな お名前	いのう <sup>ニ</sup> 井上 幸子	年齢	71才
ご住所	兵庫	都道府県	神戸 市郡

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

「地震と聞くだけで恐怖心が甦ってきます。10年前のあの日、何事が起こったのか、この付近だけなのか、暫く何もわかりませんでした。時間がたつにしかたつて少しずつ事態の大変さが理解できてきました。しかし、二日間で夫婦二人でりんご立を戴いたように思いますが、二人共飲む、食べるという気持ちにはなれませんでした。余震と救急車、消防車等の音に怯える毎日でした。神経だけがピリピリとして熟睡する事は出来ませんでした。夜は、枕元に靴を置き、着替はせずに横になりました。会社務めをしていたので二日目から出社し、社員の安否確認の電話を掛けました。務めを持っていく事は、立直る上に大きな助けになったと思います。他府県のナンバーを付けた車が復興支援の隊に来て下さっていて、車を見ながら感謝の気持ちでいっぱいになり涙があふれてきました。今でも思い出すと胸が熱くなります。皆様に助けられて生かされていると、いつも感謝し下ろ生活に居ます。でもずーと、いつもやっぱり地震は怖い。

ふりがな お名前	さね しま けい 子 較 島 恵 子	年 齢	64 才
ご住所	兵庫 都道府県 神戸 市 郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙



震災に会ってまず"立ち上がれば" 国が援助して  
くださる。人が助けてくださる。

本当に日本~~の~~の国に生まれて良かったと思えた。

日本は良い国。人はやさしい。

ふりがな お名前	土佐 みち子	年齢	66才
ご住所	兵庫 都道府県	神戸 市・郡	

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

早朝の毎日登山へ出かけるため、玄関のドアの手をかけた時、地震に襲われた。まるでジェットコースターのような激しい縦揺れだった。部屋がめまぐるしく壊された。先程まで寝ていたベッドのテレビや本棚が倒れているのを見て、ぞっとした。ガラスの破片で身動できなかった。電気、水道、ガスのライフラインが止まった。暗黒の街を見ると、至る所で火事が起っていた。築30年余の家に住んでいたのと思えない。

それから10年。震災直後、全国各地の方から救援物資が送られ、ありがたかった。ボランティアによる炊き出しがうれしかった。連日連夜、知人、友人との見舞いの電話で癒された。避難所で見知らぬ人達が助け合った。復旧、復興へと市や県の対応はすばらしかった。

今度は私達が恩返しをする番だ。新潟県中越地震で被災されたみなさんへ震災体験者として、お見舞い申し上げます。住み慣れた家や村を一瞬に失い、さぞ悲しく、無念でしょうが、「生きてることが丸儲け、今は朝の連続ドラマでのせりふです。『震災なんか負けたまふが』の心意気で、明日に向かって強く生き抜くことを願ってやまない。

ふりがな 氏名前	住 宅 番 号	年 齢	66才
住所	兵庫 都道府県	神戸 市 郡	

# 「1.17メッセージ」応募用紙

16.11.6

全国の暖かい御支援のお陰で現在の穏やかな生活がある事を  
先ず心より感謝します。

有難い事に健康に恵まれ、些かながらとも社会に貢献すべく積極的に  
ボランティア活動を行っており、可能な限り今後も続けていこうと思っ  
ています。

人情・誠を通せば人情・誠が返ってくる事を大震災以来、多々経験  
して来ました。

人間は、天災発生には無抵抗です。被害を極力抑える事しか  
出来ませんが、それか為には絶えず防災意識を持ち適策を講じて置く  
事が極めて大切です。同時に「他人を思い遣(やる)気持と実行」  
がまことに「人間的」に他を助けます。

全国の皆様、多大な御支援 本気で有難う御座りました。

お名前	的場 宏	年齢	71才
住所	兵庫 都道府県 神戸 市 郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

一冊の新書版から教えられる過去の地震

阪神淡路新橋の調査資料から(地震学者の著書)から、東海に位置する  
の古墳群の調査資料。6世紀の地震跡、あるいは新橋の古墳群の調査資料  
から、地震の歴史(596)から、地震の歴史、東海に位置する  
の古墳群の調査資料。6世紀の地震跡、あるいは新橋の古墳群の調査資料

また、この地震の歴史(596)から、地震の歴史、東海に位置する

この地震の歴史(596)から、地震の歴史、東海に位置する

1月17日未明、大地震鳴動の瞬間「速・地震」と判断し、家具が倒壊する場面に  
身をこらした。激しい揺れ、横断の揺れ、そして平如く、冷静な行動が  
かたじけなく。

正しい知識が、この地震の歴史(596)から、地震の歴史、東海に位置する  
孫子の兵法の如く、この地震の歴史(596)から、地震の歴史、東海に位置する  
体験。この地震の歴史(596)から、地震の歴史、東海に位置する  
不、地震の歴史(596)から、地震の歴史、東海に位置する  
親と人として大切にする。

お名前	うたはら ひとし	年齢	27 才
ご住所	兵庫県 神戸市	市・郡	



# 「17メッセージ」応募用紙

あの震災から来年で10年 一という間には歳月が流れた  
ように思うが 私の人生においては甲斐の濃い10年であった。  
地震から数日は自分の身にふりかかると現実を受け止め  
られず 丁度背中を押されるように日々を過ごしていた  
年若い両親、幼なじみ達は田舎へ疎開させ、主人と二人  
暮らしになった。その後主人も会社に出勤し、一人になった家  
は丁度丁度なく 言いようのない寂しさに襲われる毎日  
だった。そんな時どこからともなく聞える歌声に心癒  
されたことを覚えている。あの大地震で身内が誰一人亡く  
なるとなく生かされたこと、そして生きていることの感謝が  
歌声とともに更生した。しばし片付けの牛をこめいしよに  
口すまむ 私の心にヒラキいたことがあります。"私も歌えよう  
神戸市内の仮設住宅をまわろう。あれから9年、有馬山、三宅島  
台湾、ニューヨーク、新潟、被災地にも歌声を届けよう、それ  
は今でも続けている。地震によって、私は、より深く  
人と関わり 絆を つなげていくことの大切さを教わった。  
あの日亡くなった方々分まで "生かされた命"を無馬太  
にすることなく生きて行こうと今強く思います。

(名前) 山本 れい子

(年齢) 43

(住所) 兵庫 郡 神戸 市 区

# 阪神・淡路大震災10周年記念応募1.17ページ

テーマ 1.17は忘れぬ日 北正 江田正子  
1995年1月17日の午前5時46分、阪神淡路  
大震災があった。2005年1月10年を迎える。  
震災の朝、長男は出勤のため起床し廊下に出  
たとたんドーンと大きな音と共に、隣りの部屋  
で私のベットの側に長男の部屋のステレ  
オが、カベを破っていた。部屋を除くとベッ  
ト上にステレオ、タンスは引き出しごとひき出  
てまっかかっていた。電気、ガス、水道、電  
話も通じない状態であった。岡山から夫の弟  
が「エースをきいて」といって、水と食べもの  
を支援してくれ、心から感謝した。しあわ  
せ持に仮設住宅が建設され、早朝のモーニン  
グサービスボランティアを申し込んだ。被災高  
齢者の見守り、生きがいづくりの応援をさせ  
てもらった。現在は老健でリハビリ軟体そら  
利用者と共に四季の俳句を詠んだり、買物や  
散歩介助をさせてもらっている。今後への決  
意は今を大切に私を待って下さる利用者の方  
々に任せていく決意をしている。

# 「1.17メッセージ」応募用紙

頑張ろう神戸 明るい未来を信じて前進していきたい。

(お名前) 川端 勝

(年 齢) 61 歳

(ご住所) 兵庫県神戸市

# 「1.17メッセージ」応募用紙

「被災地から全国へのメッセージ」

あの日から10年が経ちましたが、全国の方々からの優しさ、心の温かさ、声援の言葉を沢山頂いた事を、今も忘れずに生きています。完全に復興したとは言いきれませんが、以前の美しい神戸に戻りました。全国の皆さん、今度は神戸に遊びに来て下さい。皆さんのお力添えで、以前のように美しくなった神戸の街を見て下さい。

(お名前) よこやま じゅんいち

(年齢) 39

(住所) 兵庫県神戸市

# 「1.17メッセージ」応募用紙

被災地から全国へのメッセージ

震災から10年・・・今思うこと、そして今できること 大地が狂ったように揺れたあの阪神大震災から10年が来る。繁栄を続けてきた大都市がたった20秒で跡形もなく無惨に消えていった。あの日、私は自分の家のベランダから見た神戸の町を一生忘れないだろう。手のほどこしようのない大火災が見る見る町を飲み込んでいく。神戸に生まれ神戸に育った私にとってこの光景は耐え難いものがあった。昨日まで何の不安もなく暮らしてきた町がまるで戦場だ。けたたましい救急車、パトカー、消防車のサイレン、マスコミ、自衛隊のヘリコプターの爆音・・・行方不明の親戚を探し兵庫警察の遺体安置所で身元確認をして行った時の死体の山。今ここに横たわっている真っ黒焦げの死体はつい数時間前まで笑ったり、怒ったりしてそれぞれの人生を送って来たのだと思うと人間の運命のはかなさを痛いほど感じた。また、断水のための給水作業、各避難所での炊き出しと、全国から駆けつけて来ていただいたボランティアの方々の懸命の援助がどれだけありがたくそして力強く感じたことだろう。それから、遺体捜索、人命救助にあたった各県の消防、警察、自衛隊の方々、ライフライン復旧のため日夜励んでくれた電気、ガス、水道、交通の職員の方々と、私はこの震災を通して人間のすばらしさ、はかなさと言うものを身をもって勉強した。 私たちは今では、水もガスも電気も何不自由なく存分に使っているがここでもう一度あの震災の頃を思い出そう。トイレ一回分の水を運ぶのにどれだけ苦労したのかを自分の家で風呂に入れた時の感動を・・・ 大震災から10年。神戸の町もほぼ復興したと言ってもいい。しかし、この不景気のおり震災前の神戸の活気までには、まだまだである。また、今回の台風23号による水害や新潟中越地震の報道をみていると、この10年の神戸の教訓が生かされているとはとうてい思えない。震災10年を迎えるにあたりこのような思いを強く感じるのは私だけであろうか。最後に、この阪神大震災で亡くなられた約6500名余りの方々のご冥福を心より祈りたい。

(お名前) 土井 直祐 (どい なおすけ)

(年齢) 40歳

(住所) 兵庫県神戸市

# 「1.17メッセージ」応募用紙

## (1) 被災地から全国へのメッセージ

阪神淡路大震災は、当時小学生だった私にとってとても衝撃的な事でした。震災から10年が経とうとしている今でも、当時のことは鮮明に覚えています。最近では台風の災害や新潟中越地震の話題をよく耳にし当時の事を思いださずにはいられませんでした。大変だった思い出や辛かった怖かった事も思いだすのですが何より一番思い出すのはボランティアに来てくださった方のことです。マジックをしてくださったり、小学生だった私とたくさん遊んでくださいました。あの時の私を支えてくれたのはボランティアの方だったと言えます。本当にありがとうございましたと伝えたいです。そして今、大学生になった私は福祉の道に進もうと考えています。震災の時にたくさんの方に助けてもらったお礼がしたいのです。そして一人でも多くの方の笑顔が見れるようにこれからも努力していくつもりです。最近では水害や震災のニュースが頻繁に起こり各地で支援を必要としている方がたくさんおられました。私ができることといえば募金することや行動できる範囲でのボランティアしかありませんでした。兵庫県の豊岡市のボランティアに参加させていただいた際。主婦・社会人・小中高生・大学生など本当に様々な方がボランティアされていました。日本中でみたら少人数だったのかもしれませんが何かしたいと思って集まった方がたくさんいたことに私はとても嬉しくなりました。神戸に笑顔が戻ったように水害や震災でゆっくり休む事もできない人たちにも必ず平穏な日が訪れます。そのために、全国でできることがあるならみなさんで協力しましょう。一人一人の優しさが、必ず復興につながるのですから。

(お名前) 弘田美緒

(年齢) 21歳

(住所) 兵庫県神戸市

# 「1.17メッセージ」応募用紙

私は舞子高校環境防災科という震災後、神戸市の防災教育の一環として設立された専門学科に所属しています。その中で、日々防災について知識を深めようと勉強に励んでいます。今年の夏休みには、近い将来南海地震がくるとされる静岡に足を運び、高校生に阪神大震災の教訓を伝えたり、南海地震に備えた堤防の見学、意見の交換などを行なって来ました。私は将来消防士になりたいと思っています。そして、自らが災害に携わり防災の必要性や大切さだけでなく、防災のすばらしさも広げていけたらと考えています。震災の時、私はまだ幼稚園の年長でした。この幼稚園の年長というのは、震災のことを自分の記憶として覚えている最後の学年だと言われています。私にとって10年という年月はあっという間に過ぎていきました。しかし、あのときの揺れは、けして忘れません。災害というものは、一生出会うことのない人がほとんどです。そのため自分のこととして考えない人も多いでしょう。しかし、その対策をしているのとしていないのでは大きな違いがあります。それはまた、命に関わってくるかもしれません。私たち神戸で育ったものは十分にその大切さを知っています。これからの神戸の役割、それは防災の大切さを世界に伝え広げていくことだと思います。現在、兵庫県の防災力の高さは日本一と言っていいほどのものであると思います。今後は、震災の時に助けてもらった方々に恩返し之意を込めて、防災の知恵を伝えていくことが大切だと思います。自分もその一員として神戸で育った誇りをもって、何事にも目を避けることなく現実を受け止め、それに挑戦し続けたい、そう思っています。

(お名前) 横峯誠悟

(年齢) 16

(住所) 兵庫県神戸市

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

震災を体験して多くの事を学んだと思っ  
 ています。偉い心思いやの大切な。然  
 命の大切など。日々平凡な日常になっ  
 て来たからあの時の偉い心を忘れてい  
 方の多い子に思っています。高齢者や  
 ない傷つけない子に思わけて欲しい  
 と思っています。  
 添、他人の事と思われないで自分を置き替  
 る人を知りて送して下さい。

ふりがな お名前	本下 千代	年齢	才
ご住所	兵庫県 神戸市		



阪神・淡路大震災10周年記念

## 「1.17メッセージ」応募用紙

震災で、心も傷付いたと思うけど、  
がんばって下さいよ

ふりがな お名前	徳留 玲奈	年齢	13 才
ご住所	兵庫県	都道府県	神戸 市 郡

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

震災で傷ついたと思うけど  
がんばって下さい。

ふりがな お名前	<sup>い</sup> <sup>で</sup> <sup>ゆ</sup> <sup>か</sup> 井出 有香	年齢	13才
ご住所	兵庫 都道府県	神戸市・郡	

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

ぼくはまた ~~お~~じいちゃん かるい物かと思っ ていましたが  
 かんばってくだい

ふりがな お名前	石井 綾恭	年齢	12 才
ご住所	都道府県 神 戸 市 郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

これからも復~~建~~旧をがえはって  
 続けてください

ふりがな お名前	井上 功大 雄大	年齢	13 才
ご住所	兵庫 都道府県 神戸 市郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

1.17では何年(何年)に  
 起った事か判りません  
 <717>  
 何ゴロ居ても良い。この場  
 には記憶しませんが  
 ⇒父の表に下さり。

ふりがな お名前	木下 宏	年 齢	25 才
ご住所	都道府県 神戸 市・郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

10年前におこったこと。もう、10年、T<sub>1</sub>、T<sub>2</sub>10年。  
でも、体験した私たちの心からも忘れかけていた  
出来事をまた、思い出のことが出来ました。

いまでも、出来事ではあったけれども、一生  
忘れてはいけない事です。人間として自然の  
大きさと向きあう。かつ、人間同士のやさしさ  
を、もう一度考えたい。考える日にしたいです。

ふりがな お名前	みやま くにこ 宮山 くに子	年齢	37才
ご住所	兵庫 都道府県 神戸市 市・郡		

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

当我来到这里，才真正感受到什么叫「生き好く」。

如果一个民族或是一个国家可以从这样的灾难中走出来。

我想没有什么事情可以难倒他们。

内敛、含蓄、富有韧性的民族精神，在日复一日、日复一日与自然的抗争中慢慢形成了。或许我有点开了语言。今后可以学到更多东西……

ふりがな お名前	张 静 宇 ZHANG JING YU	年 齡	20 才
ご住所	兵庫 都道府県 神戸 市郡		